

## 贈呈式

贈呈式は、本田副理事長の「主体的な活動によって芽吹き、開花した文化活動をとoshi、地域とは何か、文化とは何かを考えていただきたい」というあいさつで始まり、93件、助成総額1,675万円の贈呈を行いました。



## 発表会

発表会は、平成20年度の助成対象者8団体に一年の研究結果を発表していただきました。



子どものためのアートプロジェクト



奥津温泉足踏み洗たく保存会



音の絵本制作委員会



岡山県良寛会

## 交流会

続いて交流会では、岡山の文化活動に尽くされている方々が一堂に会し、情報交換をしていただく良い機会となりました。

平成二十一年度の文化活動助成贈呈式及び発表会を九月十二日(土)、岡山プラザホテルで開催いたしました。

平成二十二年年度教育研究助成・文化活動助成の募集を開始します！

財団法人福武教育文化振興財団助成先の活動

## 教育研究助成

対象 岡山県内の学校園に所属する教育関係者、及びその地域、保護者の方々  
応募方法 学校園または市町村教育委員会等へ配付予定(11月中旬)の募集要項をご覧ください、所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局宛に郵送  
応募期間 平成21年12月1日(火)から平成22年1月31日(日)【消印有効】

## 文化活動助成

対象 岡山県内で文化活動を行っている個人・団体(原則として社会人)ただし、学術研究や単なる趣味や同好の活動・調査は除く  
応募方法 市町村教育委員会、公民館等へ配付予定(11月中旬)の募集要項をご覧ください、所定の申請書に必要事項を記入の上、当財団事務局宛に郵送  
応募期間 平成21年12月1日(火)から平成22年1月31日(日)【消印有効】  
\* 詳細につきましては、11月中旬更新予定のHPをご参照ください。

- おかやま子ども民俗芸能大会  
開催日 平成21年11月8日(日) 開演13:00~16:00 入場無料  
会場 建部町文化センター大ホール  
主催 おかやま子ども民俗芸能大会実行委員会
- 青少年のための科学の祭典2009倉敷大会  
開催日 平成21年11月14日(土)・15日(日)  
会場 ライフパーク倉敷・倉敷科学センター  
主催 青少年のための科学の祭典2009 倉敷大会実行委員会
- アンサンブル早島 第10回定期演奏会「運命」  
開催日 平成21年11月15日(日) 開演14:00(開場13:30)  
会場 倉敷市芸文館  
主催 アンサンブル早島
- 桃太郎少年合唱団 第47回定期演奏会  
開催日 平成21年11月22日(日) 開演14:00(開場13:00)  
会場 岡山シンフォニーホール  
主催 桃太郎少年合唱団
- 第5回記念公演 ミュージカル「バック~夏の夜の夢」  
開催日 平成21年11月23日(月・祝)  
会場 岡山市立市民文化ホール  
主催 こどものためのアートプロジェクト
- 第26回外国人による日本語弁論大会  
開催日 平成21年11月29日(日) 13:00~17:00 入場無料  
会場 岡山国際交流センター2F国際会議場  
主催 (社)大学女性協会岡山支部
- ミュージカル カブニの遠足  
開催日 平成21年11月29日(日) 14:00~  
会場 笠岡市市民会館  
主催 カブニの仲間



F U E K I

# 不易

vol.136

[特集2] [特集1]

# 報 決

『越後妻有アートトリエンナーレ・大地の芸術祭』の視察ツアー  
福武文化賞に藤原敬介氏と水戸岡鋭治氏  
福武文化奨励賞に山路みほ氏ら二個人二団体

# 告 定

★岡山県立岡山大安寺高等学校を訪ねて★平成二十一年度 文化活動助成贈呈式及び発表会を開催★平成二十二年年度 教育研究助成・文化活動助成の募集開始★平成二十一年度 助成先の活動

## 岡山県立岡山大安寺高等学校を訪ねて



岡山大安寺高校の正門

岡山県立岡山大安寺高等学校は、平成22年4月に同じ校地内に中等教育学校が開校することが決まっており、今後大きく変わってきます。

そこで、新しく設置される中等教育学校とはどのような学校か、既に設置されている県立岡山操山中学校や倉敷天城中学校とは何が異なるのか等を、中等教育学校開設準備事務局長を兼ねている大塚雅嗣校長を訪問し、お話を伺いました。

岡山大安寺高等学校は、昭和38年に岡山学区3番目の普通科高校として、現在の地に誕生しました。校門を入ると正面に大きな御影石に刻まれた『師弟同行・授業第一・五時下校』の文字が目に入ります。これは「校是」として、創立から今日まで伝統として脈々と受け継がれてきた教育理念で、生徒と教師が目標に向かって常に寄り添いながら歩みを進めていく姿勢を表しており、特色となっています。

校名は、学校の所在地が古くは奈良にある大和大安寺の寺領であったことに由来し、当時大和大安寺は最高学府・総合大学として多くの人材を輩出したといわれており、今日も生徒、保護者が訪問するなどの交流が持たれています。

このような特色を持った岡山大安寺高校は、「岡山大安寺中等教育学校」が誕生することに伴い、平成24年度をもって生徒募集を停止し、最後の学年が卒業する平成26年度末をもって閉校することが決まっています。

## 6年間の一体的な学習活動や体験活動

## 来春から全く新しい中等教育学校へ

県立中学校は県内に、岡山操山中学校・倉敷天城中学校の2校があります。この2校は中学校と高等学校が同じ校地内にある併設型で、生徒は中学校を卒業した後に併設の高等学校に進学し、学習する内容も中学校と高校に区分されることが基本です。

これに対して、中等教育学校は6年間継続的・計画的な教育プログラムで繋がっており、前期課程(中学校)と後期課程(高等学校)の学習内容を組み替えて編成することも可能です。例えば基礎期・充実期・発展期の3段階に区分し、それに応じた学習内容を設定することにより生徒の能力や興味・関心に合わせた教育課程を編成することができます。



御影石に刻まれた『師弟同行・授業第一・五時下校』の文字

大塚校長兼事務局長は、「岡山大安寺高校が培ってきた『師弟同行』の教育理念を継承しながら、中等教育学校の特色である6年間の一体的な学習活動や体験活動を通して『知識と体験の融合』を実践し、『たくましい人間力』

を持った生徒を育成したい。まさに『大安寺ルネッサンス』というべき時であり、生き生きとした岡山大安寺中等教育学校を育てたい」と夢を語っておられます。

今、岡山大安寺中等教育学校の関係者は、50年前の学校設立の時と同じように「教育界の開拓的存在」として建学の意気に燃えています。

岡山大安寺中等教育学校が、岡山の中等教育の活性化に貢献される事を願っています。



開校準備に追われる事務局

『越後妻有アートトリエンナーレ・大地の芸術祭』の視察ツアー報告

## 当たり前と思っていた日常に、新しい視点

福武教育文化振興財団 理事 谷口弥生

9月の初旬、1泊2日の日程で『越後妻有アートトリエンナーレ・大地の芸術祭』の視察ツアー（福武学術文化振興財団・福武教育文化振興財団主催）に参加した。

越後妻有は岡山から新幹線とバスを乗り継いで6時間。美術館を飛び出した現代アートの野外展示かなという程度の認識しかなかった私の前に、小さな集落が点在する懐かしい山里の風景が広がっている。約760km<sup>2</sup>（岡山市とほぼ同じ広さ）という広大な里山を巡る現代アートのツアー。ワンダーランドに飛び込んだアリスの気分だ。

初日に訪ねたのは主に十日町、松代、松之山地区の空き家や廃校を利用したプロジェクト「Wasted」「もうひとつの特異点」「ストーム・ルーム」「絵本と木の実の美術館」「福武ハウス」。2日目は、「脱皮する家」「黎の家」「家の記憶」「最後の教室」と、空き家や廃校が作家の目を通してアート作品としてよみがえっている。

フランスから参加しているC.レヴェックがカタログで述べているように「スピリチュアルな儀式的な感じを受けた妻有の空き家の現状をそのまま生かした、個人的でいて普遍的な記憶に結びつくような空間」に生まれ変わっていた。訪れた私たちは、自然豊かな妻有の日常から一瞬のうちに非日常に引き込まれて、自分の内面に目を向けさせられる。そしてその場を後にすると、また里山の日常に戻る。それを繰り返していると、自分は自然の中の一部なのかアートの側なのか境目がわからなくなってくる。



例えば、絵本と木の実の美術館では色彩豊かな絵本の中に入り込み最後には主人公の子どもたちと一緒に外の世界に飛び出すというように。

『大地の芸術祭』は、私にとってワンダーランドであり、当たり前と思っていた日常に新しい視点を与えてくれた。

1日目にバスに同乗してくださった北川フラム総合ディレクターは、新潟県の広域振興策の一環として2000年にこの芸術祭が始まって以来、その中心にいる。現代アートを地域活性化の起爆剤とすることに多くの批判、疑問、葛藤があった。しかし彼は、「アーティストは地域住民と協働しながら場所に根ざした作品を制作し継続的に地域の展望を拓く活動に関わる」という基本理念で、アーティストと住民の橋渡し役をしてきたという。

北川さんは1988年「アパルトヘイト否！国際美術展」で全国194か所を巡回するなど、草の根的にプロデュースを展開したことも知られている。私も岡山展（岡山武道館）に関係したひとりとして、コミュニケーションの手段としての現代美術に目を開かされたことを懐かしく思い出した。

あれから20年経つが、北川さんの眼は常に時代の問題に向いているようだ。過疎高齢化に向かう現代の日本の地方を活性化させたいという思いが福武総一郎総合プロデューサーの思いと重なり、越後妻有で形をとってきている。来年の瀬戸内国際美術展がどういう展開になるのか楽しみである。

### Cover Photograph

「月昇る」（緑川洋一）



父と月

父は月や星が大好きでした。それは無限の時間と小さな人間では考えも及ばない創造の世界を展開してくれるからだそうです。この作品は瀬戸内の月の出から約6時間シャッターを開いて、何億年も繰り返されてきた「月の神秘」を閉じ込めたものです。

父は作品をこう表現しています。「月は中天に静かに昇る。星・月は海を巡り何干、何億年変わらない天の運行だ。満月の丸い月も、時間がたてば一本の太い線に写る」と。

本田慧星を発見した本田実さんも星や月が大好きで、父と仲の良い友人でした。私が子どものころ、本田さんの案内で中秋の名月を船の上から見ようと六島まで連れて行っていたことがあります。小さな船で波しぶきを浴びながら見る名月の素晴らしさは、数十年経った今でも脳裏に浮かびます。

またこんな話もあります。ある日、本田さんが「緑川さんは月の裏側からも写せるのですね」といたずらっぽく目をして尋ねました。実はその写真は、父が月を反転して合成した一枚で、そそかしい父の一面を覗かせた笑い話となりました。

年を重ねますと感動することが少なくなってきました。いつまでも瀬戸内海的美しさの虜になっていた父の感性を、私も失いたくないと思うこのごろです。（長女 西瑞子）

### Editor's comments

福武文化賞と奨励賞に、今年もまた素晴らしい受賞者が決まりました。全国に認められるQualityに甘んじることなく、あくなきChallengeを続けられる皆様です。奨励賞の中には、選考委員から「奨励賞というより功労賞、功績賞にふさわしい実績がある」との評価の受賞者もいらっしゃいます。しかし、さらなるご活躍を切に期待して奨励賞をお贈りすることになりました。誠にありがとうございます。

特集2では、当財団谷口理事に「大地の芸術祭」視察記をお願いしました。私も同行しましたが、つい岡山県の山村と較べてしまいます。ハード整備は進んでも一向に人の姿が見えないのはなぜ？ 全国から多くの自治体執行部や議会の視察が相次ぐ中、岡山県内自治体からの公的視察はなかったようだとお聞きしました。

学校訪問は岡山大安寺高等学校。私は、岡山市の南方小学校、旭中学校そして大安寺高校の卒業生ですが、小中学校の名前は統合で既に消え、大安寺も中高一貫の「岡山大安寺中等教育学校」になろうとしています。あまりに激しい世の移ろいを感じ寂しくもありますが、県内初の取り組みが成果を挙げられ、個性的で生きる力にあふれた若者育成につながりますようお祈りします。(N)

季刊

不易

F U E K I vol.36 2009.10.25

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17  
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190  
http://www.fukutake.or.jp/

制作 株式会社 吉備人

デザイン 田中雄一郎(QUA DESIGN style)

岡山県の文化の向上に貢献した個人や団体を顕彰する、第10回福武文化賞、福武文化奨励賞の選考委員会が9月4日岡山市内のホテルで開かれ、厳正な審査の結果、文化賞に2個人、奨励賞に2個人2団体が決定しました。受賞者は次のとおりです。

贈賞式は、11月9日(月)岡山プラザホテルで行います。

### 福武文化賞



藤原敬介氏

(陶芸家／岡山市在住)

人間国宝 藤原啓氏の次男として生を受けられましたが、備前以外の焼物にも触れたいとの思いから多治見で美濃焼を修行し、その後岡山市に築窯。精力的に作品を発表し多くの賞を受賞されるとともに、後進の指導や産業振興、国際交流にも尽力されています。備前のもつ変化と志野の柔らかさを取り入れた「備前志野」の研究制作に取り組みブランドとして確立させるなど、「用の美」を理念として備前焼の範疇にとどまることなく作陶を行われ、あくなき探究心で常に意欲的に新境地を開拓する姿勢は高い評価を得ています。



水戸岡鋭治氏

(デザイナー／東京都在住)

機能性を重視しながら都市の個性と調和し、「和」のテイストまでも盛り込んだデザインは、既に全国の都市や列車に導入されています。岡山出身の氏はふるさとでの活動に尽力され、電車や船舶、街づくりのデザインなどその成果は数え切れません。とりわけ、2005年岡山国体、2009年全国都市緑化岡山フェアでの活躍はめざましく、都市の中で果たすデザインの役割と大切さを県民に認識させた功績は誠に大きいものがあります。「デザインは公共のため、デザイナーは公僕たれ」との氏の思想は、優れた多くの実績を生んだ源です。

# 決

福武文化賞に、  
福武文化奨励賞に、  
藤原敬介氏と水戸岡鋭治氏  
山路みほ氏ら二個人二団体

# 定

### 福武文化奨励賞

#### ○ 山路みほ氏 (箏曲演奏家／倉敷市在住)

日本の伝統音楽の衰退が懸念される中、全国邦楽コンクール総合第1位の実力をもとに、古典のみならず様々な楽器や創作舞踊、ジャズバンド等数多くのジャンルとのコラボレーションや作曲にも取り組むなど、新しい親しみやすい邦楽を模索されています。活動は全国にとどまらず世界各国に及び、邦楽の若い担い手として大きな期待が寄せられています。

#### ○ 太田三郎氏 (美術家／津山市在住)

自作の切手をモチーフとした作品で知られることとなった氏は、今や国際的な展覧会、美術館コレクションなどで活躍されている現代アーティストです。津山を創作拠点として、県北の子どもたちへの美術教育や、自らがプロデュースして若手作家に作品発表の場を提供するなど、その活動には厚い信頼が寄せられ、今後のさらなる活躍が期待されます。

#### ○ 竹田喜之助顕彰会 (瀬戸内市)

昭和54年に他界した糸操り人形師 竹田喜之助の偉業の顕彰と地域芸術の向上を目的として設立されました。以降30年間にわたり、人形や資料の収集展示、絵本の発行、顕彰碑の設立等着実に活動されるとともに、アマチュアサークルの育成や全国的な「喜之助フェスティバル」の中心的役割を担うなど、今後とも大いに発展を期待されています。

#### ○ 特定非営利活動法人 若い芽を育てる会 (岡山市)

世界に通じる若い音楽家を発掘し育成しようという取り組みを、昭和55年から続けられています。活動の中心となる「若い芽のコンサート」は主に小学生以上の若者のオーディションと演奏会を通じて、演奏のみならず音楽家としての自立も指導するもので、最近では国際的に活躍する出身者が輩出されるなどその成果は大きく、今後の活動が一層期待されます。

創設以来の受賞者は、福武文化賞20件(17氏、3団体)、福武文化奨励賞は35件(18氏、17団体)となりました。受賞者の皆さまのさらなるご活躍をお祈り申し上げます。